

金森家住宅

その独特の建築で知られている金森家住宅は、武士や職人、商人らの家、神社仏閣などが狭い範囲内で立ち並ぶ大森町にありながら、それら多くの歴史的建築物の中でもひと際目を引きます。1850年に建てられた金森家住宅は、頑丈な漆喰の壁、家紋が施された棧瓦葺、母屋から独立した耐火性の土蔵など、多くの点で典型的な商人の住居と言えます。変わっているのは、切妻の一端に玄関があることです。大森町ではほとんど見かけないものであり、たいていの入口は通りに面した長辺側に位置しています。もう一つ風変りな建築的特徴は、窓が外の通りに面している高い2階です。江戸時代の大森では、そのような住宅には人々は眉をひそめたものでした。なぜなら、お役人が通りかかった時に見下ろしてしまうのは不適切だと考えられたからです。しかし、金森家には広々とした2階が必要でした。この建物は、1867年まで石見銀山の中央行政であった奉行所からお金を借りるために大森を訪れる人々のための宿として機能していたのです。